

## (9) 四国



四国地域では、景気は持ち直している。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きがみられる。

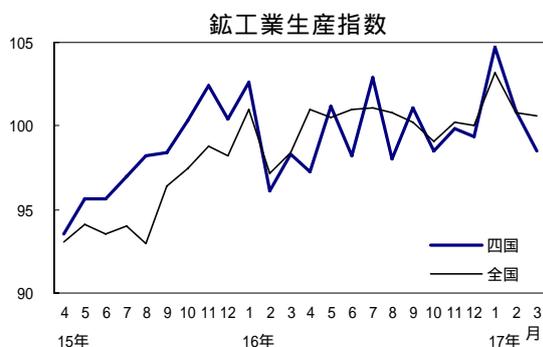
### 前回調査からの主要変更点

	前回（平成17年2月）	今回（平成17年5月）	
景況判断	持ち直しが緩やかになっている	持ち直している	
個人消費	おおむね横ばい	持ち直しの動きがみられる	
住宅建設	増加	減少	
雇用情勢	依然として厳しい状況であり、持ち直しの動きが緩やかになっている	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きがみられる	

### 1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

パルプ・紙は、情報用紙が増加したものの、新聞巻取紙や板紙が減少したため、全体ではおおむね横ばいとなっている。食料品・たばこは、肉製品などが減少したため、引き続き減少している。電気機械は、蓄電池や開閉制御装置が増加したものの、需要の伸び悩みによってデジタルカメラや液晶素子が減少したことから、全体ではおおむね横ばいとなっている。化学は、輸出の好調によりカプロラクタムが増加している。一般機械は、化学繊維機械が減少したものの、半導体製造装置が堅調に推移していることなどから、増加している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
パルプ・紙	13.3	0.7	0.4	0.9	3.5
食料品・たばこ	13.3	2.4	6.9	4.6	38.4
電気機械	12.8	0.8	4.7	1.3	8.8
化学	12.7	7.6	7.2	7.2	0.5
一般機械	11.3	9.2	3.0	2.0	2.0
鉱工業	100.0	1.5	2.2	2.7	2.3

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

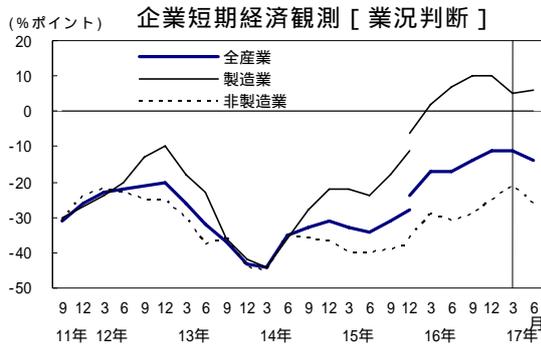
2. 1~3月期は速報値。

(備考) 1. 12年=100、季節調整値。

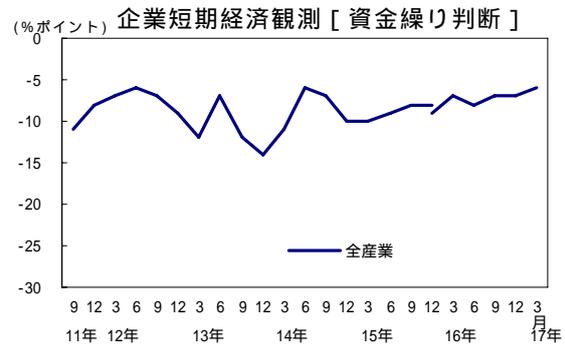
2. 平成17年3月の四国は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

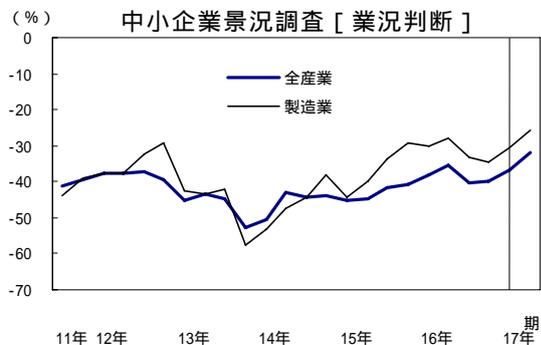
#### 企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。17年6月は予測。  
15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。17年 期は見通し。

#### 景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「4月は契約更新の時期であるが、費用対効果をよりシビアに判断し、新聞、電波、雑誌の各マス媒体を減らし、チラシ折込広告やダイレクトメールにシフトするクライアントが増えている(広告代理店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

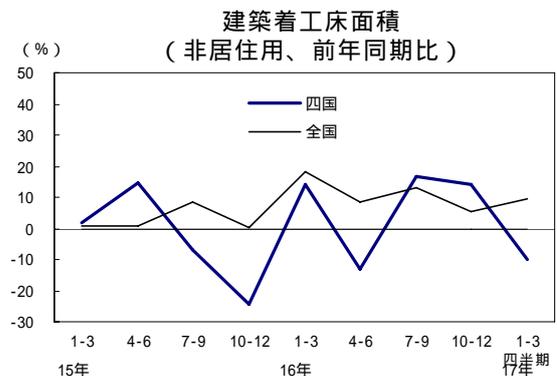
(3) 16年度の設備投資は前年度を下回る見込みとなっている。

#### 企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

(前年度比、%)

	16年度実績見込み	17年度見込み
全産業	5.4[ 2.8]	2.1
製造業	7.0[ 11.7]	2.0
非製造業	13.5[ 12.3]	5.4

(備考)[ ]は前回(12月)調査結果。



## 2. 需要の動向

### (1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

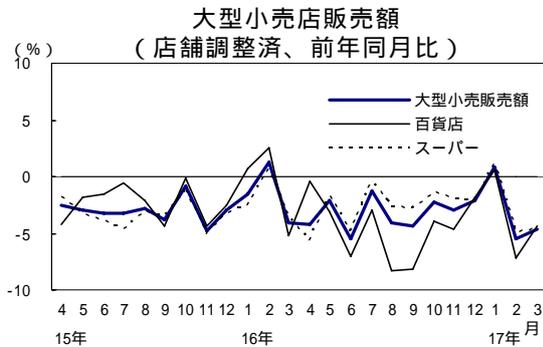
#### 大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月は、初売りや福袋の販売のほか、平年に比べ気温が低く冬物セールなどで身の回り品や衣料品が好調であったことなどから、11か月ぶりに前年を上回った。2月は、うるう年だった昨年に比べ営業日が1日少なかったことに加え、低めの気温により衣料品などの春物商品の動きが鈍く前年を下回った。3月は、ギフト商品の好調や物産展の催事効果などから家庭用品や飲食料品が前年を上回ったが、引き続き低めの気温による衣料品の不調から、2か月連続して前年を下回った。なお日本百貨店協会によると、四国地区の4月の売上高は、前年同月比で1.4%減となっている。

スーパーは、気温が低めに推移したことから衣料品を中心とした春物商品が不振であり、競合店の影響などにより飲食料品が低調であったため、1月は前年を上回ったものの、2、3月は前年を下回った。

#### 景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

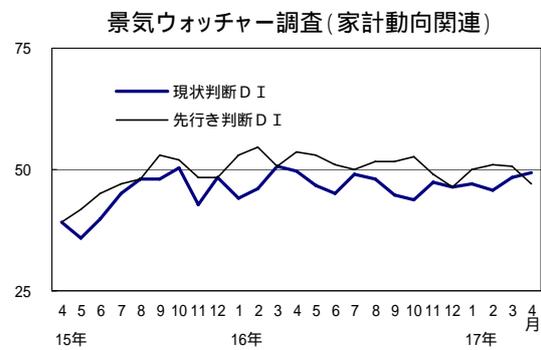
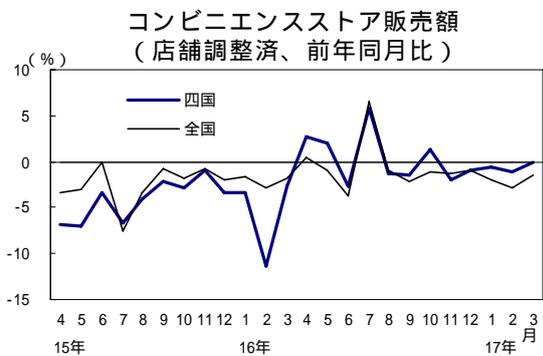
「以前は入学式などがあると早くから洋服を買う客が多かったが、現状は、必要に迫られるまで買わないというシビアな消費傾向がある。また、持ち合わせの服にコサージュをつけて式らしい雰囲気を出している人が多く、節約している様子が見え(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



(前年同期比、%)

	16年4-6月	7-9月	10-12月	17年1-3月
大型小売店	3.9	3.2	2.4	2.9
百貨店	3.5	6.0	3.3	3.3
スーパー	4.1	2.0	1.9	2.7
コンビニ	0.7	0.9	0.5	0.5
景気ウォッチャー	47.2	47.2	45.9	47.1

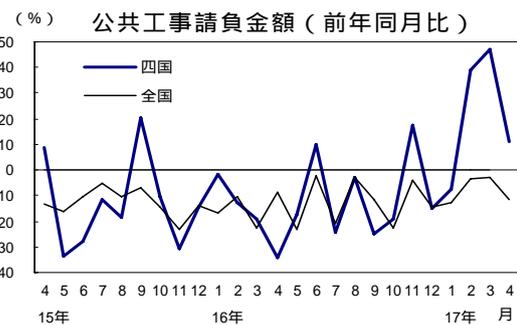
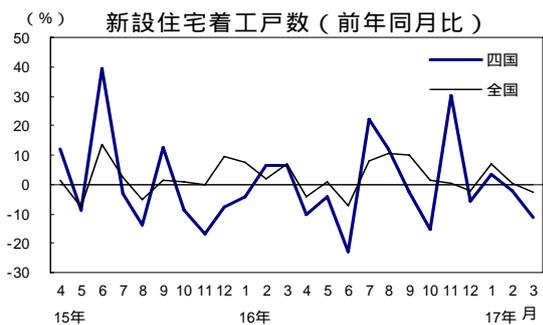
(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。  
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



### (2) 住宅建設は減少している。

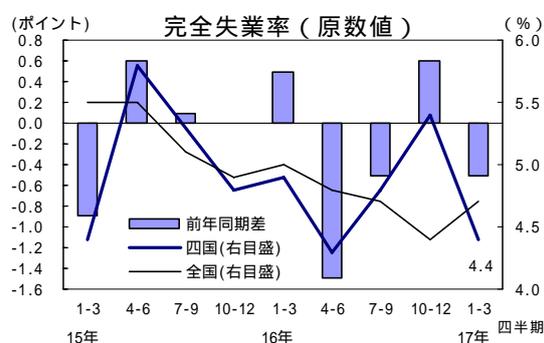
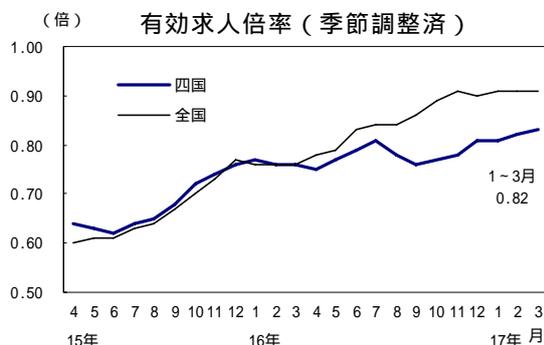
持家、分譲が前年を上回ったものの、貸家が下回ったことから、全体では減少している。

### (3) 公共投資は16年度累計で見ると前年度を下回っている。



### 3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きがみられる。  
有効求人倍率及び完全失業率  
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査(4月)[雇用関連(現状)]

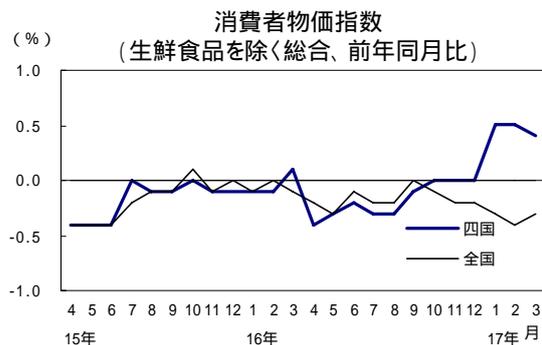
「新規求人数は、警備員、販売員で大口求人があったものの、製造業、飲食店、宿泊業、医療・福祉業で欠員補充が少ないため、全体では減少した(職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

- (2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額が横ばいとなっている。

- (3) 消費者物価指数は上昇している。

#### 企業倒産

	(件、億円、%)				
	16年4-6月	7-9月	10-12月	17年1-3月	17年4月
倒産件数	90	92	94	88	16
(前年比)	39.6	20.0	5.6	17.0	51.5
負債総額	219	136	194	322	82
(前年比)	73.2	72.0	26.1	0.0	31.1



景気ウォッチャー調査(4月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・中国が反日デモの影響でキャンセルが発生したが、国内は愛知万博、近場の温泉、沖縄、東京方面、海外はハワイ、ヨーロッパ、台湾、韓国等の需要が多い(旅行代理店)

<先行き>

- ・4月に入り、不動産の売買の動きが出てきており、客の購買意欲が少し確認できる(不動産業)

景気ウォッチャー調査(合計)

